

# ヒロシマから死刑といのちを考える

## 法務大臣にもできなかったこと

### 死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

今年の死刑廃止運動全国合宿は、11月30日～12月1日、広島市内で行われました。特別に企画された「ヒロシマから死刑といのちを考えるシンポジウム」には、民主党政権のときに法務大臣を務めた平岡秀夫さんも参加しました。

平岡さんが法相の任期中には死刑の執行がありませんでした。そのこともあって、2011年は久しぶりに日本で執行のない一年になったのです。

#### 【法務大臣にも限界】

平岡さんによると、法務大臣の一存で死刑廃止ができるものではなく、死刑囚処遇の改善一つにしても官僚の協力が無ければ動かないものだということです。

また、地元選挙区の支持者たちから、死刑に慎重な姿勢への苦情を受けることもあったそうです。

平岡さんは、せめて、法相として死刑のあり方を見直すための有識者会議を設けようと、その人選に入ったところで、内閣改造となり辞任することになってしまいました。

後任の小川敏夫法相は、死刑の執行を躊躇することなく、また、本来死刑廃止論者であった千葉景子元法務大臣が死刑執行の見返りのように立ち上げていた死刑制度の省内勉強会も早々に終わらせてしまいました。

こうして、もともと死刑に疑問を持つ議員が少なくなかった民主党政権の時代にも、死刑制度については何の成果も残すことはできませんでした。

#### 【命を守る仕事】

合宿のあと、せっかく広島に来たのだからと、多くの参加者が平和記念公園を見学しました。

人々の命を守るこそ国の仕事の中心であるはずですが、戦争と死刑は国家が強権を持って人命を奪い、奪わせるものに他なりません。死刑をためらわない支配者は戦争にも躊躇しないのではないかと心配です。

戦争を回避するための政治家の努力を誰もが高く評価します。死刑を回避する努力も同じように讃えられてよいのではないのでしょうか。広島で考えたことです。